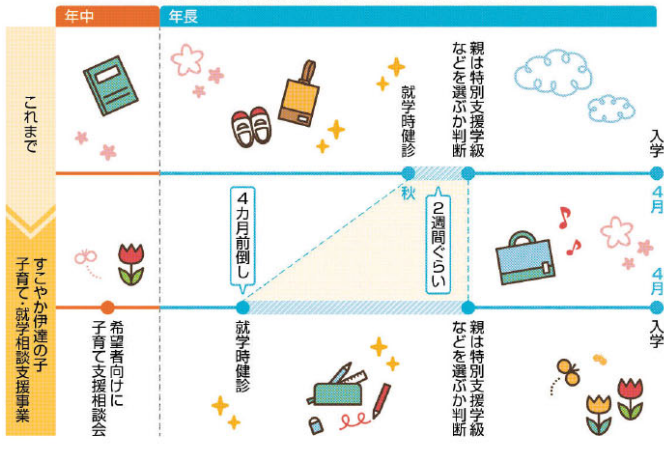


## 2月のテーマは「就学支援」

### 伊達市教委の就学前の子どもへのかかわりの変化



小学校の入学を前に、県内各地で学校説明会が開かれています。親としては「もう小学校入学か」という感慨深さの、「うちの子は学校でしっかりやっていたらいいのかな?」とちょっと心配な気持ちもあるかもしれません。伊達市では、こうした不安を持つ親に寄り添おうと、市教育委員会(市教委)が従来より1年早く年中クラスからの就学支援を行う、県内初の取り組みが行われています。

### 伊達市が県内初 年中児から対応

昨年12月下旬、伊達市の幼稚園の年中児のクラスを、伊達市教委の相談支援員2人が訪ねました。いずれも定年退職した元小学校教員で、エフロン寮園児たちと楽しく遊びながら、あいさつや返事、着替えができるか、人の話をしっかり聞いているかなど、生活の様子を観察します。後日開かれる年中児の保護者向けの「子育て支援相談会」で参考にするための活動です。この相談会は昨年度まで、年長児の保護者向けに就学時健康

# 保護者の不安 寄り添う



幼稚園で園児と一緒に遊ぶつなげるためです。同市教委によると、これらの児童生徒の背景には、ゲームやスマートフォン、タブレットなど「映像メディア」の長時間視聴による生活習慣の乱れや、発達障害の可能性がある場合があるといえます。このため、就学前の早い段階から行政が適切なサポートができれば、事業を見直しました。

幼稚園で園児と一緒に遊ぶつなげるためです。同市教委によると、これらの児童生徒の背景には、ゲームやスマートフォン、タブレットなど「映像メディア」の長時間視聴による生活習慣の乱れや、発達障害の可能性がある場合があるといえます。このため、就学前の早い段階から行政が適切なサポートができれば、事業を見直しました。

### 知能検査早めて 選ぶ時間を確保

事業では、発達障害を含めた特別な支援を必要とする子どもとその保護者の支援にも力を入れています。その一つとして、年長児を対象に行っていた集団知能検査の実施時期を、4カ月前倒ししました。

### 早期から関わり 効果的な支援に

伊達市教委の「すこやか伊達っ子 子育て・就学相談支援事業」は、小児神経学が専門で、福島医大ふくしま子ども・女性医療支援センターの横山浩之教授(62)が「伊達市市政アドバイザー」として関わり、支援のあり方について専門的な視点で助言しています。

「早期教育相談会」とし開催されてきました。近年は子育ての悩みや就学に向け不安を抱く保護者が増えてきたため、本年度から年中児の保護者を対象にした相談会も始めました。相談会の参加は希望制です。支援員は、申し込みがあった保護者の子どもが通う幼稚園や子ども園、保育所などで行動を観察し、相談会で小学校生活に必要な生活習慣や態度、技能などについてアドバイスしています。

新たな事業の枠組みを作ったのは、元小学校長で、定年退職後に市教委の相談支援員となった佐々木義通さん(64)。市内の児童生徒の状況から「就学前年度の支援では遅い。就学前の早いうちから行政がかかわって支援することが必要と考えました。学校現場の現役の先生に任せるとは、市教委が主導することでも、この事業の特徴の一つ」。

「市教委が主導することで、学校現場の負担削減や教育の質向上につながる」と、佐々木さんは見えています。現在、市教委の相談支援員は佐々木さんを含めて4人。いずれも元小学校教員で、管理職や低学年の担任の経験があります。相談支援員たちは、市内の小中学校で教職員への助言や指導も行っています。

「特別な支援を必要とする子どもは早期発見・早期介入すると、本人が持っている能力を発揮しやすくなります。就学前の早期から市教委が関わることで、そうした子どもへのより適切な支援につながることであります」と、早い段階での就学支援の必要性を指摘しています。

### 市教委の主導で 学校の負担軽減

この取り組みは、同市教委の「すこやか伊達っ子 子育て・就学相談支援事業」の一つです。これまで、市教委が就学前の子どもと保護者に関わる機会はなく、就学前年度の就学時健診だけがありました。就学に向け相談会を年中児に拡大した理由は、近年、市内の小中学校で増えている登校渋りや不登校、ゲームに依存による昼夜逆転の児童生徒の支援に

「すこやか伊達っ子 子育て・就学相談支援事業」の一つです。これまで、市教委が就学前の子どもと保護者に関わる機会はなく、就学前年度の就学時健診だけがありました。就学に向け相談会を年中児に拡大した理由は、近年、市内の小中学校で増えている登校渋りや不登校、ゲームに依存による昼夜逆転の児童生徒の支援に

「すこやか伊達っ子 子育て・就学相談支援事業」の一つです。これまで、市教委が就学前の子どもと保護者に関わる機会はなく、就学前年度の就学時健診だけがありました。就学に向け相談会を年中児に拡大した理由は、近年、市内の小中学校で増えている登校渋りや不登校、ゲームに依存による昼夜逆転の児童生徒の支援に

「すこやか伊達っ子 子育て・就学相談支援事業」の一つです。これまで、市教委が就学前の子どもと保護者に関わる機会はなく、就学前年度の就学時健診だけがありました。就学に向け相談会を年中児に拡大した理由は、近年、市内の小中学校で増えている登校渋りや不登校、ゲームに依存による昼夜逆転の児童生徒の支援に